

船舶インシデント調査報告書

平成26年7月31日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

インシデント種類	運航阻害
発生日時	平成26年1月23日（木） 16時57分ごろ
発生場所	沖縄県 ^{たけとみ なかま} 竹富町仲間港東方沖 竹富町所在の大原航路第19号立標から真方位104°300m付近 (概位 北緯24°15.3′ 東経123°57.2′)
インシデント調査の経過	平成26年4月8日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（那覇事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	旅客船 フェリードリーム、19トン 292-47879 沖縄、丸尾建設株式会社 18.45m (Lr) × 4.40m × 1.75m、軽合金 ディーゼル機関2基、1,660kW（合計）、平成18年9月
乗組員等に関する情報	船長 男性 33歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成18年7月21日 免許証交付日 平成23年6月13日 (平成28年7月20日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	左舷機右バンク5番シリンダの排気弁棒の折損、シリンダヘッド、ピストン、連接棒、全ての吸気弁及び排気弁が破損
インシデントの経過	本船は、船長ほか1人が乗り組み、旅客6人を乗せ、仲間港東方沖を約25ノットの対地速力で沖縄県石垣市石垣港に向けて東進中、平成26年1月23日16時57分ごろ、機関室の火災警報器が作動し、船尾にある機関室の排気口から黒煙が噴出した。 船長は、噴出した黒煙を認めて左舷機を停止し、左舷機の右バンク5番シリンダの損傷を確認した後、右舷機のみで石垣港に帰った。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏
その他の事項	本船は、本インシデントの翌日、機関修理業者による左舷機の開放点検の結果、左舷機右バンク5番シリンダの排気弁の弁傘部が割損してシリンダヘッドも弁傘の破片で破損し、ピストン及び連接棒が破損

	<p>していた。</p> <p>船舶所有者は、本船の新造後、運転時間に応じての主機の開放点検を行っていなかった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>なし</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、仲間港東方沖を東進中、左舷機右バンク5番シリンダの排気弁の弁傘部が割損したことから、左舷機の運転ができなくなり、運航が阻害されたものと考えられる。</p> <p>主機の排気弁は、弁座に燃焼生成物である硬質のカーボン等をかみ込むなどし、弁傘部が破損した可能性があると考えられるが、その状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本インシデントは、本船が、仲間港東方沖を東進中、左舷機右バンク5番シリンダの排気弁の弁傘部が割損したため、左舷機の運転ができなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>船舶所有者は、本インシデント後、所有する全船舶の主機について、運転機を陸揚げして整備できるよう、整備済みの予備機を用意してローテーションすること、また、全排気弁を定期的に新替えすることとした。</p> <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に主機を開放点検し、部品交換等の整備を適切に行うこと。